



木彫り作品に人気

太田名部の太田茂実さん(55)の木彫り作品展は12月18から26日までの9日間、役場入り口の村民ホールで開かれました(写真)。

作品は権現様や神楽面、かわいいネコや本物そっ

くりのリングやミカンなど約50点を展示。手の込んだ新巻サケや普代特産の海の幸などがずらりとホールを埋め尽くし、村内外から訪れた人を楽しませました。この作品展には9日間で約300人が訪れ、皆さんは「すごい」「本物そっくり」など感想を話していました。



新春呼ぶ鵜鳥神楽

うのとおり

この日の夜神楽は鳥居公民館。太鼓や笛、手平鐘が鳴り響く中、松を迎えて新しい年を祝う「松迎え」や厄難を払う祈とうの舞「山の神」など、約四時間にわたり八演目を披露しました(写真)。

北回りの今年、村から久慈市方面まで神楽衆が足を伸ばし、旧家や公民館で家内安全、無病息災を祈る多彩な神楽を舞い、沿岸地区に新春を呼び込みます。

村の鳥居地区にある鵜鳥神社の巡業が一月八日に始まり、神楽衆は鵜鳥神社で舞い立ちの儀式を行いました。

アルミ缶で車いす

12月10日、鳥茂渡小学校(荒谷栄子校長、児童10人)では、アルミ缶約1トンを売った益金で、特別養護老人ホーム「うねとり荘」(斎藤正明施設長、入所者58人)に9台目の車いすをプレゼントしました(写真)。

車いすに座った山本左平さん(上区・80歳)は「気持ちがいい、ありがとう」とお礼していました。平成7年、当時の6年生2人の呼び掛けで、始まったこの運動は、村内外に大きな輪となって広がり、毎年1台ペースで車いすをプレゼントしています。

